

2023年6月3日 坂本城を考える会資料

坂本城築城前後の坂本 ―近年の発掘調査の成果より―

大津市文化財保護課 西中久典

はじめに

下阪本地区の発掘調査

平成14・15年度に下阪本小学校建築に伴う調査以降目立った調査はなし

ここ10年程度の間に複数の調査を実施し、坂本城築城前とみられる多くの調査成果が得られた。

1 近年の発掘調査成果

1) 平成28年度（坂本遺跡）

下阪本小学校の敷地の拡幅に伴う発掘調査

複数の遺構面を検出。

第1遺構面で方形石組土坑、礎石建物、護岸の石積みなどを検出

土師器、瓦質土器、陶器など多くの遺物が出土。16世紀前半が中心か。

2) 平成30年度（坂本城跡）

宅地造成工事に伴う発掘調査。

L字形にまがる溝跡を検出。また調査区①および③の東側では礎石などを検出。建物があったと推定される。

溝を中心に多くの遺物が出土。主な遺物として、将棋の駒、木簡など。

15世紀後半から16世紀前半を中心とする時期のもの。

3) 令和元年度（坂本城跡）

宅地造成工事に伴う発掘調査

方形石組土坑、石組井戸、礎石建物などを検出。方形石組土坑は南北方向に並ぶような形で、全部で7基検出。

出土遺物は、様々なものが出土した。

水晶片、水晶玉未成品、玉砥石 ⇒ 水晶玉等の生産を行っていた可能性（職人？）

木簡、五輪塔の未成品、硯、その他多くの土器類。

15世紀後半から16世紀前半を中心とする時期のもの。

4) 令和4年度（坂本遺跡）

宅地造成工事に伴う発掘調査

石組井戸、方形石組土坑などを検出。

青磁香炉、白磁梅瓶などが出土

(令和4年10月～2月の調査。これから整理作業等を実施予定)

2 発掘調査から考えられること

1) 中世坂本の繁栄

水晶玉などの生産⇒職人の存在

木簡類の出土⇒交通、物資の集積地としての位置づけ

将棋の駒、香炉、碁石など⇒文化的素養、金銭的に裕福な人々の存在

2) 中世坂本の町割り

(参考) 昭和58年度調査成果

⇒道(松ノ馬場通り)に面して礎石建物、裏側に石組井戸、方形石組土坑が存在
平成30年・令和元年度の調査成果

⇒方形石組土坑・石組井戸と礎石建物を検出。方形石組土坑の位置関係、昭和58
年度調査の成果から考えるとそれぞれの調査区の東側に道の存在が想定される。
令和元年度西側の調査区の空閑地⇒同様に道などが想定される。

⇒松ノ馬場通りより南側の広大な範囲に町割りが行われていた可能性

(これまでは、上坂本と下坂本をつなぐ松ノ馬場通りの周辺の繁栄が指摘されていた。)

15世紀後半から16世紀前半頃とみられる遺物が主。それ以前、以後のものがほとんど
みられない?坂本の町が発展していく過程の中で町の範囲が広がっていったのでは。

(松ノ馬場通りに面する平成28年度調査などでは、それ以前とみられる遺構面、また
それ以後の遺構もみられる。)

昭和30年代の空中写真 ⇒ 平成30年・令和2年度の調査成果から考えられる町割
りとみられる水田の区画?

3) 坂本城との関連性

平成30・令和元年度の調査では、城内となる遺構は確認できず。また時期としても城
より前の時期のものが中心か。

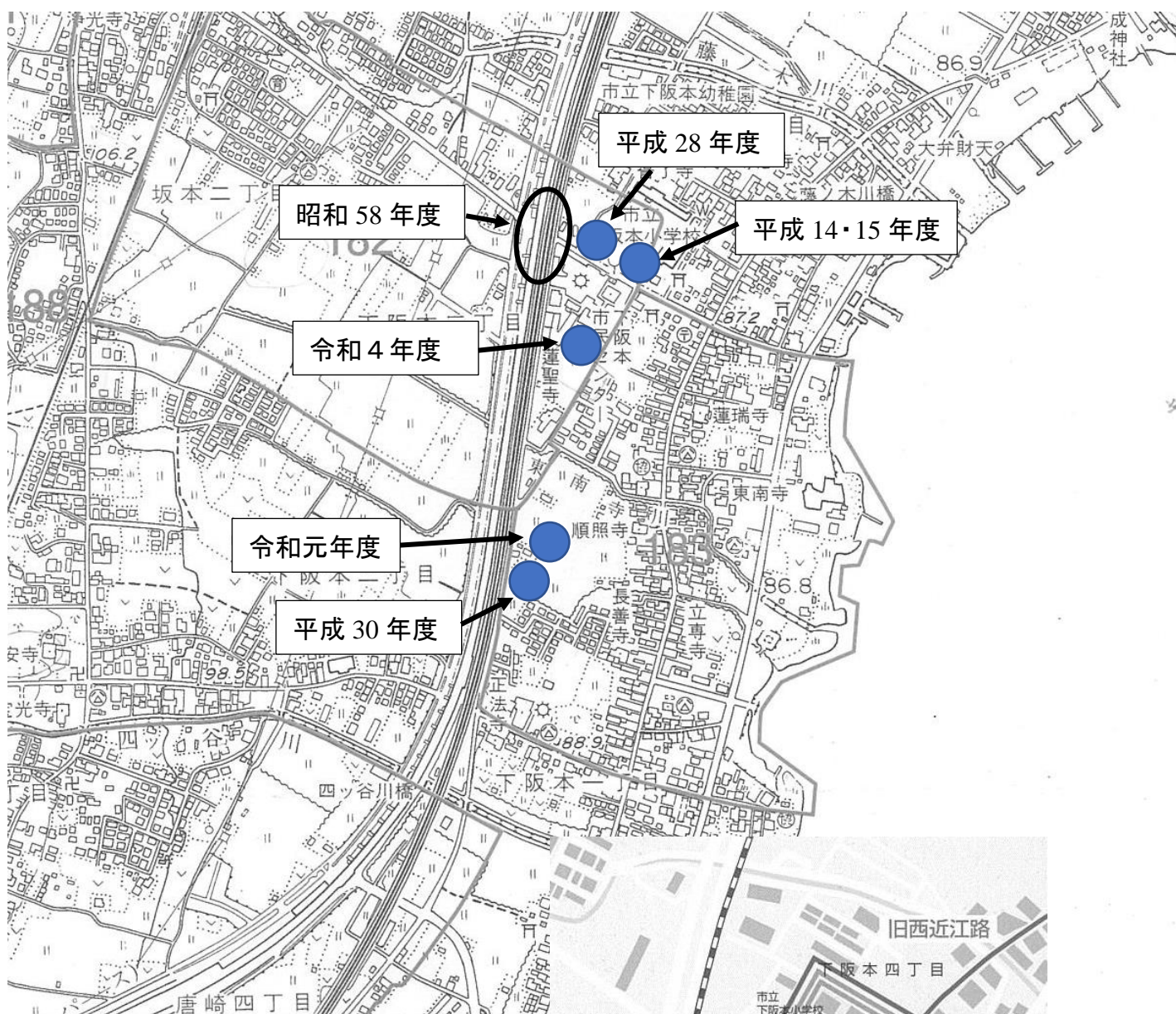
出土遺物の時期等については、今後も検討が必要。

城下町は?

おわりに

令和4年度の調査⇒松ノ馬場通りに近い地点での調査。時間幅の確認。

築城による町割りの変化、城下町は。

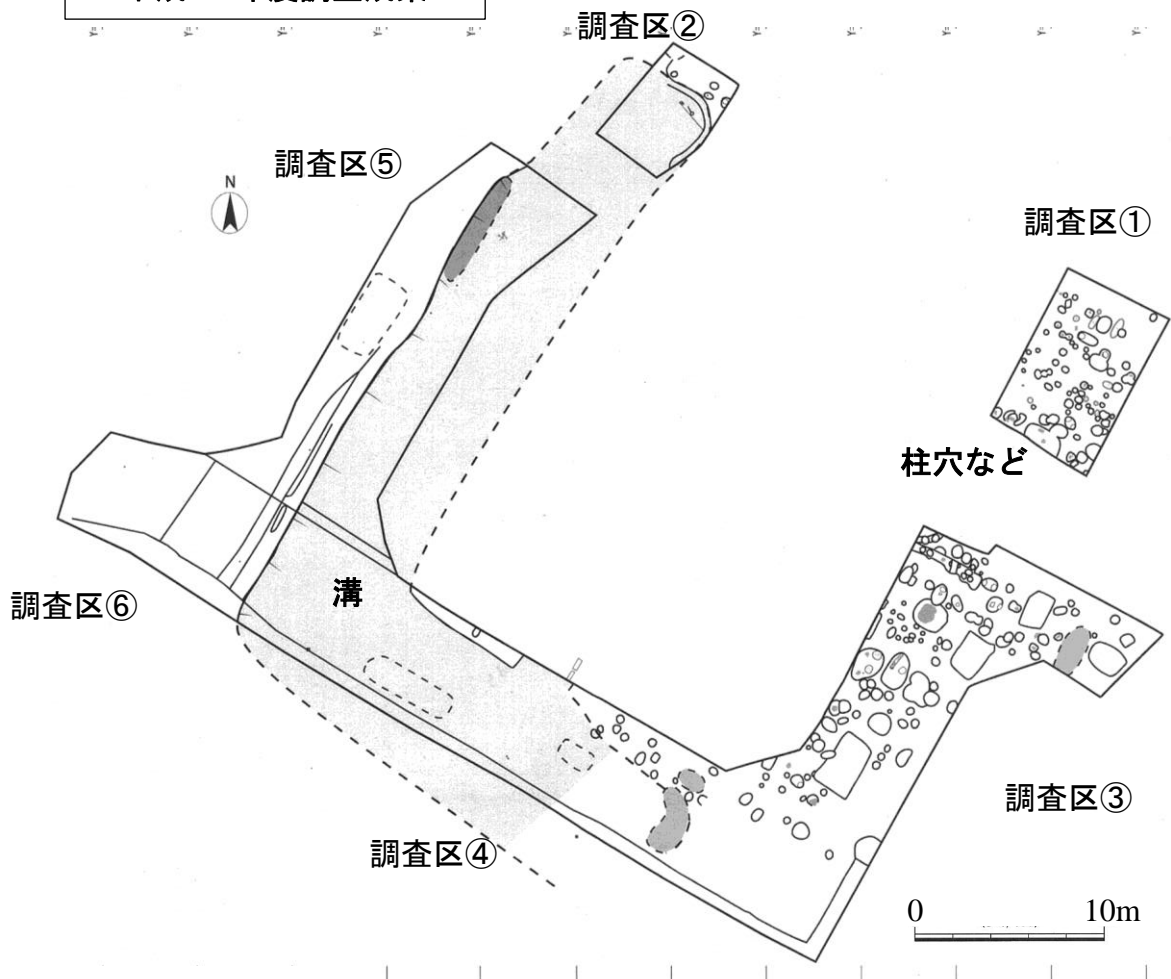


調査地位置図



坂本城縄張想定図

平成 30 年度調査成果



遺構配置図



馬形代



将棋の駒 (桂馬)



漆器椀

主な出土遺物



木簡

令和元年度調査成果

NO. 5



Y=-11350

Y=-11360

Y=-11370

Y=-11380

Y=-11390

Y=-11400

Y=-11410

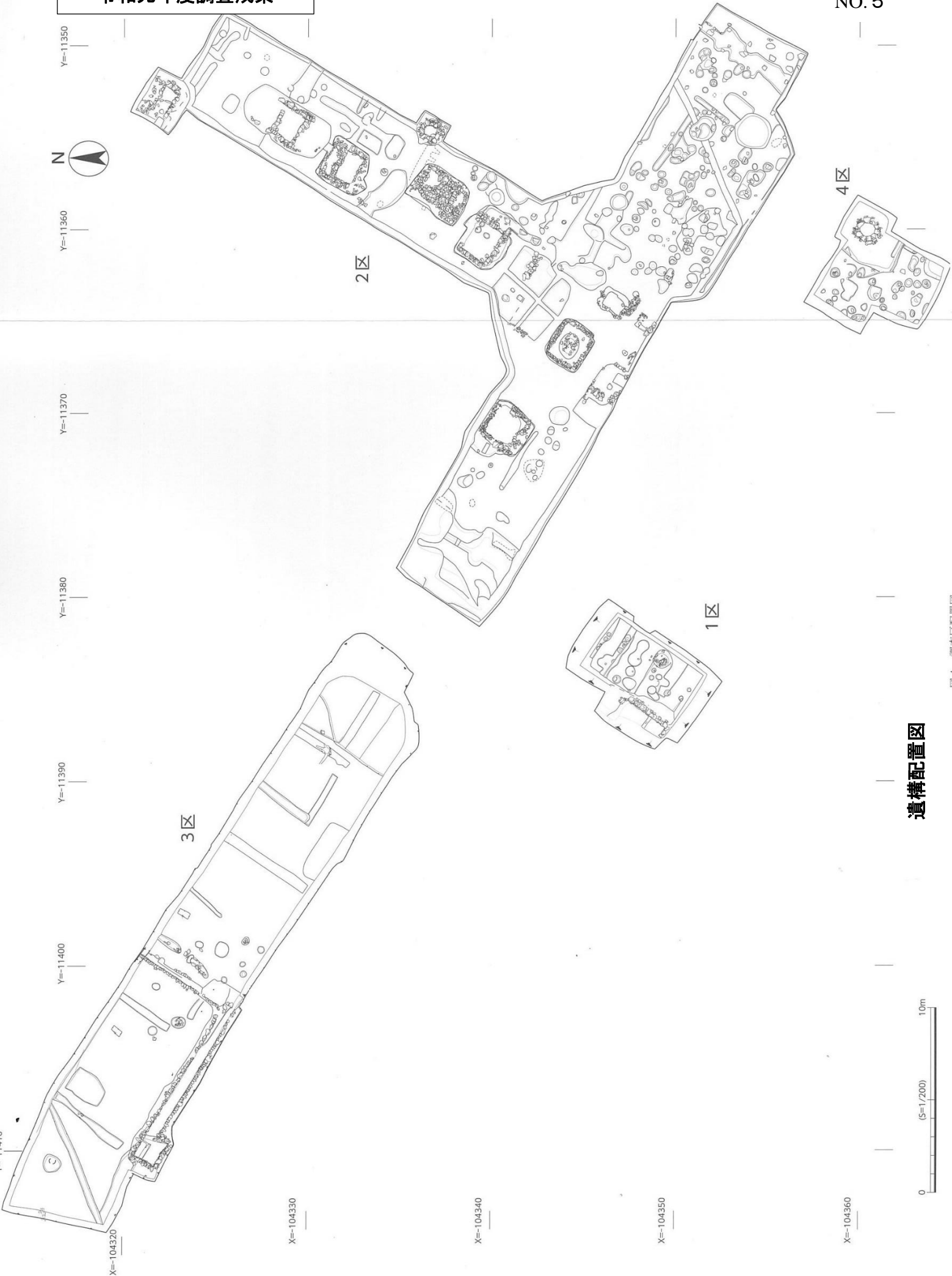
X=-104320

X=-104330

X=-104340

X=-104350

X=-104360



遺構配置図

図4 調査区配置図





水晶薄片



水晶原石



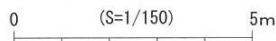
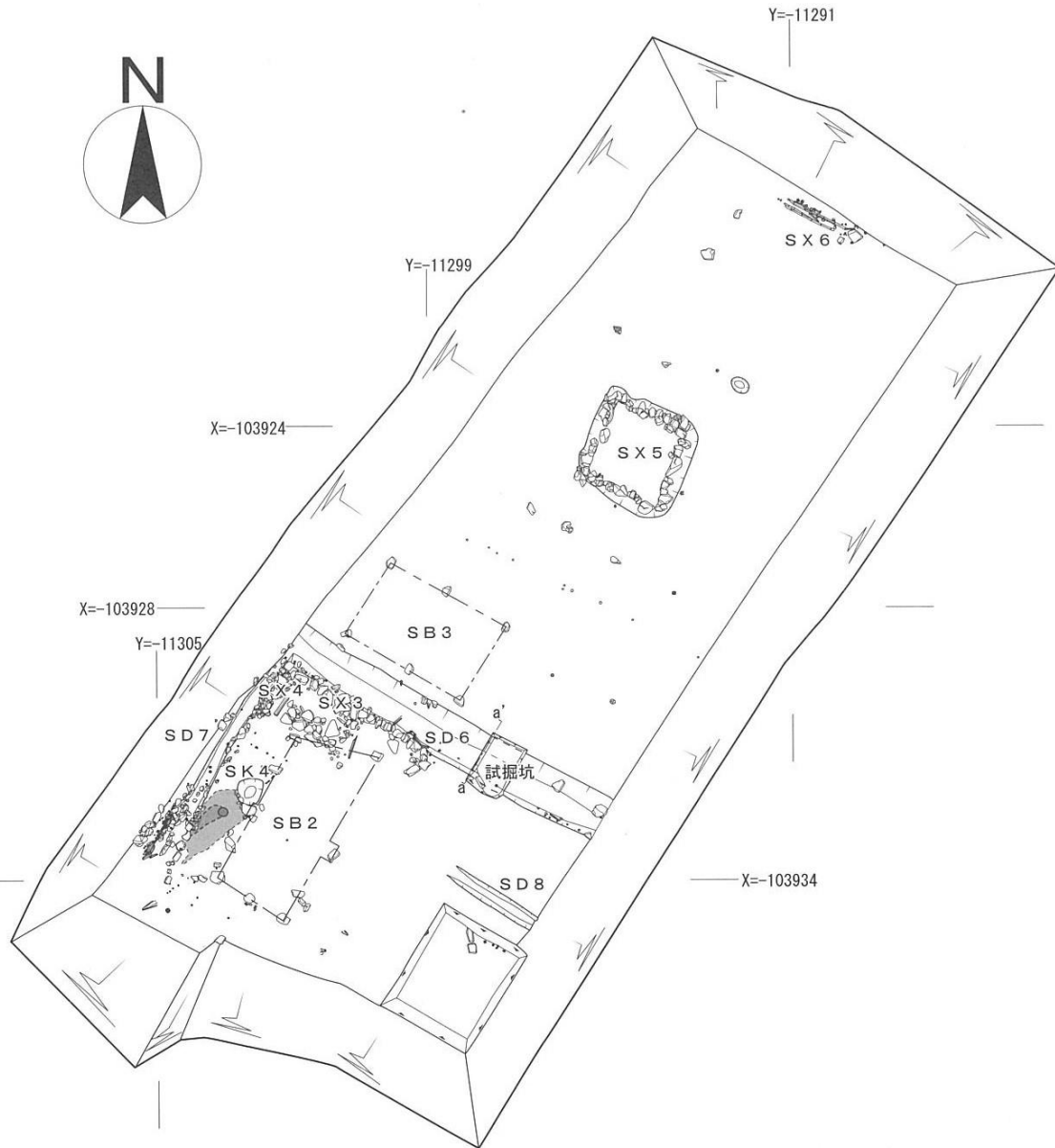
水晶玉未成品



水晶粗割

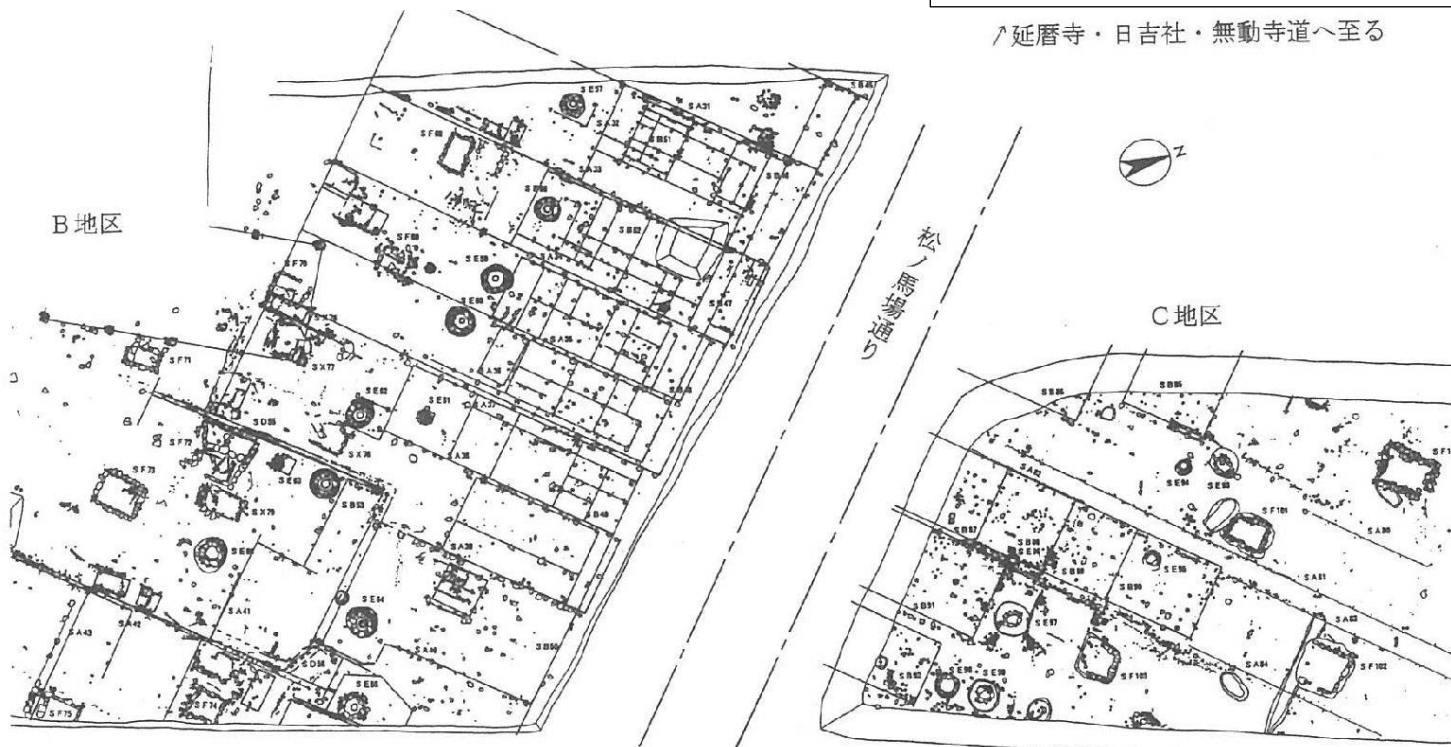


玉砥石



平成 28 年度調査遺構配置図

↗ 延暦寺・日吉社・無動寺道へ至る



↙ 坂本城へ至る

昭和 58 年度調査遺構配置図